

第 51 回 知的財産管理技能検定

3 級 学科試験

(はじめに)

すべての問題文の条件設定において、特に断りのない限り、他に特殊な事情がないものとします。また、各問題の選択枝における条件設定は独立したものと考え、同一問題内における他の選択枝には影響しないものとします。

特に日時の指定のない限り、2025年1月1日現在で施行されている法律等に基づいて解答しなさい。

解答は、選択枝ア～ウの中から1つ選びなさい。

問1

ア～ウを比較して、著作物に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 編集物でその情報の選択又は体系的な構成によって創作性を有するものは、編集著作物として保護される。
- イ プログラムの著作物を作成するために用いるプログラム言語は、著作物として保護されない。
- ウ 事実の伝達にすぎない雑報は、言語の著作物として保護されない。

問2

ア～ウを比較して、商標法に規定されている審判に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 利害関係人のみが、不使用取消審判を請求することができる。
- イ 拒絶査定を受けた出願人のみが、拒絶査定の謄本の送達日から所定の期間内に、拒絶査定に対する審判を請求することができる。
- ウ 商標登録無効審判が請求されている場合であっても、同一の商標登録に対して、不正使用取消審判を請求することができる。

問3

ア～ウを比較して、意匠登録出願又は意匠登録に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 第1年分の登録料の納付がされ、意匠権の設定登録がされた後に、その登録内容を記載した意匠公報が発行される。
- イ 登録意匠の内容について、意匠登録出願人の請求により設定登録の日から3年の期間を限度に、その意匠を秘密にすることができる。
- ウ 特許庁長官は、意匠登録出願の日から1年6カ月を経過したときは、その意匠登録出願について出願公開をしなければならない。

問4

ア～ウを比較して、工業所有権の保護に関するパリ条約に規定される三大原則として、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 内国民待遇
- イ 各国特許の独立
- ウ 従属特許の原則

問5

ア～ウを比較して、著作権法における譲渡の対象となる権利として、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 頒布権
- イ 同一性保持権
- ウ 翻訳権

問6

ア～ウを比較して、特許権の設定登録、存続期間に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 特許権の存続期間を延長しようとする場合には、存続期間更新届を提出しなければならない。
- イ 特許権は、原則として特許料の納付があった日から20年間存続する。
- ウ 特許権の設定登録を受けるためには、第1年から第3年までの特許料の納付が必要である。

問7

ア～ウを比較して、不正競争防止法に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 商品について、その原産地や品質を誤認させるような表示をする行為は、不正競争行為に該当しない。
- イ 他人の商品の形態が周知又は著名でなくても、その他人の商品の形態を模倣した商品を販売する行為が、不正競争行為に該当することがある。
- ウ 他人の著名な商品等表示と同一ではなく類似のものを自己の商品等表示として使用する行為は、これにより混同が生じた場合に限り不正競争行為に該当する。

問8

ア～ウを比較して、著作隣接権に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 実演家の著作隣接権の存続期間は、その実演を録音・録画した時に始まる。
- イ 著作隣接権を享有する者のうち、実演家以外には著作権法上的人格権が認められていない。
- ウ 著作隣接権の享有には、いかなる方式の履行をも要しない。

問9

ア～ウを比較して、商標登録に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 文字、図形、記号、立体的形状若しくは色彩又はこれらの結合、音その他政令で定めるものであって、新規性を有するもののみが、商標登録を受けることができる。
- イ ありふれた名称を普通に用いられる方法で表示する標章のみからなる商標について、商標登録を受けることができない。
- ウ 商品の形状であって、その商品の機能を確保するために不可欠な立体的形状のみからなる商標について、商標登録を受けることができる。

問 10

ア～ウを比較して、特許権に係る差止請求権に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 特許権者は、自己の特許権を侵害するおそれがある者に対し、当該侵害の予防を請求することができる。
- イ 特許権者は、自己の特許権を侵害する者に対し、侵害の停止を請求するに際し、侵害の行為を組成した物の廃棄を請求することはできない。
- ウ 特許権者は、自己の特許権を侵害した製品の過去の販売行為について、差止めを請求することはできない。

問 11

ア～ウを比較して、意匠権等に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 意匠権の存続期間はその設定登録の日から25年をもって終了する。
- イ 意匠権者は、業として登録意匠及びこれに類似する意匠の実施をする権利を専有する。
- ウ 意匠登録出願前からその出願に係る意匠を知らないで自ら創作して実施している者に先使用权が認められる場合がある。

問 12

ア～ウを比較して、特許出願の願書に添付しなければならない書類として、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 出願審査の請求書
- イ 特許請求の範囲
- ウ 明細書

問 1 3

ア～ウを比較して、著作権法上、著作隣接権を有する者として、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア レコード製作者
- イ 有線放送事業者
- ウ 映画製作者

問 1 4

ア～ウを比較して、特許協力条約（P C T）に規定される国際公開に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 優先日から18カ月経過後に国際公開が行われる。
- イ すべての国際出願について国際公開が行われる。
- ウ 受理官庁が国際公開を行う。

問 1 5

ア～ウを比較して、意匠権に係る実施権等に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 意匠権者は、その意匠権について、専用実施権を設定することができる。
- イ 意匠権者は、他人に通常実施権を許諾していても、その意匠を実施することができる。
- ウ 意匠権が共有に係る場合、自己の持分については、他の共有者の同意がなくても譲渡することができる。

問 16

ア～ウを比較して、著作権に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 彫刻の原作品を購入した者は、その彫刻の著作権者の許諾を得ずに、その彫刻の原作品を撮影し、当該撮影した画像を公衆送信することができる。
- イ 著作権者から絵画の原作品を購入した者は、その絵画の著作権者の承諾を得ずに、その絵画の原作品を有償で第三者に譲渡することができる。
- ウ 言語の著作物の複製物を購入した者は、その言語の著作物の著作権者の許諾を得ずに、その言語の著作物の複製物を有償で公衆に口述することができる。

問 17

ア～ウを比較して、商標権又は使用権に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 地域団体商標制度を利用した商標登録は、商品又はサービスの品質管理を適切に行っていないと、商標登録無効審判により無効とされる。
- イ 専用使用権の設定は、登録しなければその効力を生じない。
- ウ 通常使用権は、登録しなくとも、その発生後にその商標権を取得した者に対しても、その効力を有する。

問 18

ア～ウを比較して、特許法に規定する先願主義に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 同一の発明について異なった日に二以上の特許出願があった場合は、最先の特許出願人のみがその発明について特許を受けることができる。
- イ 同一の発明について異なった日に二以上の特許出願があった場合は、特許出願人の協議により定めた一の特許出願人のみがその発明について特許を受けることができる。
- ウ 同一の発明について異なった日に二以上の特許出願があった場合は、特許庁長官が行う公正な方法によるくじにより定めた一の特許出願人のみがその発明について特許を受けることができる。

問 19

ア～ウを比較して、独占禁止法に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 独占禁止法の規制内容として、私的独占、不当な取引制限及び不公正な取引方法の禁止が含まれる。
- イ 事業者は、私的独占又は不当な取引制限をしてはならない。
- ウ 独占禁止法に違反する事実が認められた場合、公正取引委員会は排除措置命令を出すことがあるが、課徴金納付命令を出すことはできない。

問 20

ア～ウを比較して、育成者権の効力に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 育成者権の効力は、農業を営む者の自家増殖にも及ぶ場合がある。
- イ 育成者権者は、品種登録を受けた品種の名称について独占的に商標権を取得することができる。
- ウ 育成者権の効力は、登録品種の種苗を利用する行為にのみ及び、登録品種の収穫物を利用する行為には、育成者権の効力が及ぶことはない。

問 21

ア～ウを比較して、特許出願の出願審査の請求に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 特許出願があったときは、何人も、その特許出願について出願審査の請求をすることができる。
- イ 特許出願があったときは、いつでも、その特許出願について出願審査の請求をすることができる。
- ウ 特許出願があったときは、その特許出願についての出願審査の請求は、特許庁審査官にすることができる。

問 2 2

ア～ウを比較して、著作権者の許諾を得なければ行うことができない行為として、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 営利目的ではあるが、聴衆から料金を受けず、かつ実演家に対し報酬が支払われない場合に、公表された音楽の著作物を公に演奏すること
- イ 公表された著作物を、公正な慣行に合致し、かつ引用の目的上正当な範囲内で引用すること
- ウ 家庭内に準ずる範囲内で使用する目的で、映画の著作物を複製すること

問 2 3

ア～ウを比較して、特許協力条約（P C T）に規定される制度として、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 国際調査制度
- イ 国際予備審査制度
- ウ 国際審査請求制度

問 2 4

ア～ウを比較して、弁理士の業務に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 弁理士は、単独で、特許侵害訴訟の訴訟代理を受任することができる。
- イ 弁理士は、他の弁理士と共同して特許出願の代理人になることはできない。
- ウ 弁理士は、著作権の売買契約に関する交渉の代理人になることができる。

問 2 5

ア～ウを比較して、著作権の存続期間に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 共同著作物の場合は、最初に死亡した著作者の死後 7 0 年を経過するまでの間、存続する。
- イ 職務著作に係る著作物の場合は、著作権の登録後 7 0 年を経過するまでの間、存続する。
- ウ 映画の著作物の場合は、その著作物の公表後 7 0 年を経過するまでの間、存続する。

問 2 6

ア～ウを比較して、特許を受けるための要件に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 公序良俗に反する発明や公衆衛生を害するおそれがある発明でないこと
- イ 産業上利用できる発明であること
- ウ 発明の属する技術分野において、当該技術分野の通常の知識を有する者がきわめて容易に創作できる発明でないこと

問 2 7

ア～ウを比較して、著作権に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 著作権と一緒にあれば、他人に著作者人格権を譲渡することができる。
- イ 著作権の譲渡登録をしなくとも、著作権を譲渡することができる。
- ウ 職務著作に係る著作物の著作者は法人その他使用者であり、その著作権は当該法人等有する。

問 28

ア～ウを比較して、特許法と独占禁止法の関係に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 独占禁止法は、特許法による権利の行使と認められる行為であっても特段例外についての規定はなく、適用される。
- イ 独占禁止法には、特許法による権利の行使と認められる行為には適用されない旨が規定されている。
- ウ 独占禁止法は、特許法による損害賠償請求権の行使と認められる行為には適用されないが、差止請求権の行使と認められる行為には適用される。

問 29

ア～ウを比較して、商標登録出願に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 商標登録出願があったときは、何人も、商標登録出願について出願審査の請求をすることができ、所定の期間内にし出願審査の請求がなかったときは、当該商標登録出願は、取り下げたものとみなされる。
- イ 一商標一出願とは、1つの商標に対して、1つの商品又は役務を指定して出願することをいう。
- ウ 審査官は、政令で定める期間内に商標登録出願について拒絶の理由を発見しないときは、商標登録をすべき旨の査定をしなければならない。

問 30

ア～ウを比較して、著作隣接権に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 私的使用目的で複製を行った場合には、著作権と同様に著作隣接権も制限される。
- イ 著作者が、その著作物を演じても著作隣接権を有することはない。
- ウ レコードに固定した音が著作物でない場合であっても、著作隣接権が発生する。

【3級学科】

番号 正解

問1 ア
問2 ア
問3 ウ
問4 ウ
問5 イ
問6 ウ
問7 イ
問8 ア
問9 イ
問10 イ
問11 ア
問12 ア
問13 ウ
問14 ウ
問15 ウ
問16 イ
問17 イ
問18 ア
問19 ウ
問20 ア
問21 ア
問22 ア
問23 ウ
問24 ウ
問25 ウ
問26 ウ
問27 ア
問28 イ
問29 ウ
問30 イ